

# ざくろの実●通信

‘08 秋号

発行日／平成 20 年9月 15 日 通算号数／第4号  
発行／山下レディースクリニック  
兵庫県神戸市中央区磯上通 7-1-8 三宮インテス4F  
TEL:078-265-6475 FAX:078-265-6476

## Message 『日本受精着床学会に参加して』

山下レディースクリニック

院長●山下正紀



8月末、福岡市の国際会議場で『日本受精着床学会』が盛大に開催されました。当院からも私を含め5名のスタッフが参加して、2題の口演と1題のポスターでの発表を行いました。毎年、夏に開かれるこの学会は、日本を代表する体外受精の学術会議として、非常に重要な位置づけがなされています。

今年で第26回を迎えた本学会は、発足当時からわが国の体外受精の目覚ましい進歩と発展を支えるいしずえとして、大きな役割を担ってきました。医師、看護師、胚培養士をはじめ研究者やカウンセラーなど生殖医療、医学に携わる専門家が一同に集います。そこでは、この分野の最新の知見や技術が数多く発表され、またその発表に対して、安全性や有効性、問題点など、さまざまな角度から議論がなされます。この学会に参加することで、最新の情報に接することができるだけでなく、臨床家としての幅を広げることができると感じています。私自身、20年以上も出席し続ける中で、今や出席者の中でも古株として数えられるようになりました。現在は、学会の評議員も務めております。

“不妊に悩むご夫婦の幸せのために”という共通の目標を持っているもの同士の情報交換の場としても、とても意義のある集いだと思います。当院参加者一同、今年も多くのことを学んできました。また、ほかの施設の素晴らしい取り組みにも、おおいに刺激を受けて帰ってまいりました。この学会で得たものを、今度は皆さま方にお返しするのが私たちの使命です。皆さまの願いを実現するために、ともに歩いていく当院スタッフの今後にどうかご期待ください。

『IVF (体外受精)』や『ICSI (顕微授精)』などのARTを行うには、卵子を体外にとり出す必要があるのですが、とり出された卵子は体内にいたときとは異なる環境で移植までの日々を過ごすこととなります。

体外で過ごすことになった卵子や胚のストレスを少しでも減らすことが、より良い胚を得るための重要なポイントとなります。

卵子や胚が体外で受ける可能性のあるストレスの1つに、光があります。体内環境では、卵子や胚は、光に当たることなく受精や分割といった過程を経ています。一方で、IVFやICSIを行う場合は、卵子や胚を目で見て判断する必要があります。採卵で卵胞液から卵子を探すのも、移植の際により良い胚を選択するのも、顕微鏡を用いて行います。実際に卵子や胚を目で見ると言うことは、光を当てなければなりません。もちろん、しっかりと見るからこそ、いい結果が得られる場合がほとんどなのですが。

動物の中には、卵子や胚が極端に光に弱い種が存在します。このような動物種に対しては、光から卵子や胚を保護するために、顕微鏡にフィルターを取り付ける方法がとられています。私たちが普段見ている可視光線は、約390-750nmの波長の光であるとされています。通常の顕微鏡の光にもこのような波長(約390-750nm)の光が混在しているのですが、その中でも波長の大きい光(約620-750nm)ほど、細胞へのダメージが少ないことが報告されています。

ヒトの卵子や胚は、比較的光に影響を受けにくいとされていますが、負担を少しでも減らせる可能性があるのなら!と、当院では顕微鏡にフィルターを取り付けることで光を約620-750nmの波長のもの限定して、顕微操作や観察を行っています。実際に当院でフィルターを用いるようになってから、採卵5日目の胚盤胞期胚の割合が15%程度増加しています(2008年日本生殖医学会にて発表予定)。

目で見えるということを目の前のこととせず、どんな小さなことでも改善して、少しでも体内に近い環境づくりを心がけることが、良好胚の獲得につながるのではないかと考えています。



波長の長い、胚にやさしい光の下で撮影した、

採卵3日目の8細胞期の胚たち。

## たまごシッター（またの名を胚培養士）日記

### 『私を救ってくれたひと言』

培養室室長●岩山 広

みなさんも、日々の治療のなかで不安に押し潰されそうになったりすることがあるのではないのでしょうか。「たった一言で救われる」と言うと大げさかもしれませんが、誰かの何気ない一言で気持ちが楽になったりすることってありませんか？

私は大学在学中に、国の調査捕鯨に同行させて頂く機会があり、5ヶ月ほど南極海まで行ってクジラの体外受精の研究をしてきました。朝は5時半から起床して調査業務と自身の研究をして、毎日寝るのは深夜1～2時という生活でした。体力的にも精神的にもハードで、気が滅入ることも多くありました。

そんなときに、お世話になっていた大学の先生からのこんな言葉に励まされました。

「Take it easy!」 —— 気楽にやろう！

……私もいつかみなさんの気持ちを支えることができるように、人と人とのつながりを忘れずに、日々の仕事をがんばっていきたいと思います。



ナース・キャップ…………『夫婦の絆』

看護師●S.A.

私は以前、外科病棟に勤務していました。そこは、癌を患う患者さまがほとんどで、最期を看取らせていただいたことも何度となくありました。たくさんの患者さまから「命の重み」を教えてくださいました。

山下L.Cに勤務するようになり、今度は「命の誕生」の場に立会わせていただいています。ここでは、患者さまお一人お一人に、それぞれの喜びや悲しみ、苦しみや感動があります。ここでもまた、家族の絆や相手を思いやる心の大切さなど患者さまから多くのことを教えていただいています。

ところでみなさまは、この夏のオリンピックはご覧になられましたか？ メダルの色や結果に関わらず、陰で支える家族の絆には心打たれるものがありました。映画やドラマでは泣けない私が、家でテレビを見ながら何度涙したことか。

ここだけの話ですが、クリニックでみなさまにお会いする際にも、涙目になっていることがよくあります。看護師として、患者さまの前で涙を流すことはめったにありませんが、もし涙目に気づかれても、つつこまずにそっとしておいてくださいね。こぼれてしまわぬように……☆



通勤電車からホームに目をやると、「喋（しゃべる）」という漢字一文字のポスターが目飛び込んできました（どうやら「車内では大声では喋るな」という逆説的なメッセージらしいのですが……）。この字、「蝶（ちょう）」と「つくり」が同じなんですよね。「世」の下に「木」と書いて、古代の中国では「葉」のことを表したのだそうです。「喋る」は口からよどみなく言葉があふれ出す様子から、木に茂ったたくさんの葉をイメージしていて、「蝶」は舞い飛ぶ様子がひらひらと散る葉のようにみえることから、どちらもこの「つくり」が使われているようです。



でも、確かに「つらい思い」をしゃべっただけで、まるで蝶が舞うように気持ちがふっと軽くなることってありますよね。しゃべっている間に、自分の本音に気がついた、そんな経験のある方も少なくないのでは？ 治療のステップアップで迷っているときはもちろん、「何を話そう」「何を聞こう」、それをまとめるのもおっくうくらい気持ちが疲れているときこそ、不妊カウンセリングの活用ドキかも知れませんね。不妊治療のことがわかる相手とじっくり、ゆっくりおしゃべりできる機会、そんな時間が必要だと感じたら遠慮なくご利用ください。

【不妊カウンセリング/月、火、木、金/無料/時間帯を受付でご確認のうえ、予約願います】

## 「こころ」と「からだ」に効くサプリメント

通院帰りのおすすめ DINNER

トルコ カフェ レストラン『チャイダチュラ』

今回は、世界三大料理の一つといわれるトルコ料理のお店「チャイダチュラ」をご紹介します。お店は、こじんまりとしていて、とてもアットホームな雰囲気。ディナーの「地中海コース」(2980円)は、シンケバブやピルズラ(ラムチョップ)といった本格的なものから、素朴な煮込み料理までトルコを満喫できてオススメ。お酒もトルコワインからビールまで、常時10種類以上そろっています。



料理に舌鼓を打ちながら、ご夫婦で一杯どうですか？ お店のホームページからは、ディナーが10%OFFになるクーポン券(1人2500円以上で利用可)がプリントできますのでお忘れなく。店員のフェティさん(トルコ人)は、南京町で、アノのびーるトルコアイス「ドンドルマ」の実演販売もやっているとか!! 本場は「のびとコシ」が違うとのこと。店内でも食べられますが、南京町に足を運んでみるのも楽しそうですね。

(培養室スタッフ一同)

【トルコ カフェ レストラン『チャイダチュラ』】神戸市中央区加納町4丁目7-2  
ALBA北野坂ビル1F/078-331-0066/営業時間ランチ11:30~14:30(土日祝のみ)  
ディナー17:00~22:30(年中無休)/<http://caydacira.net>

## みんなのベビー待合室 『きっと、わたしたちは忘れない……』

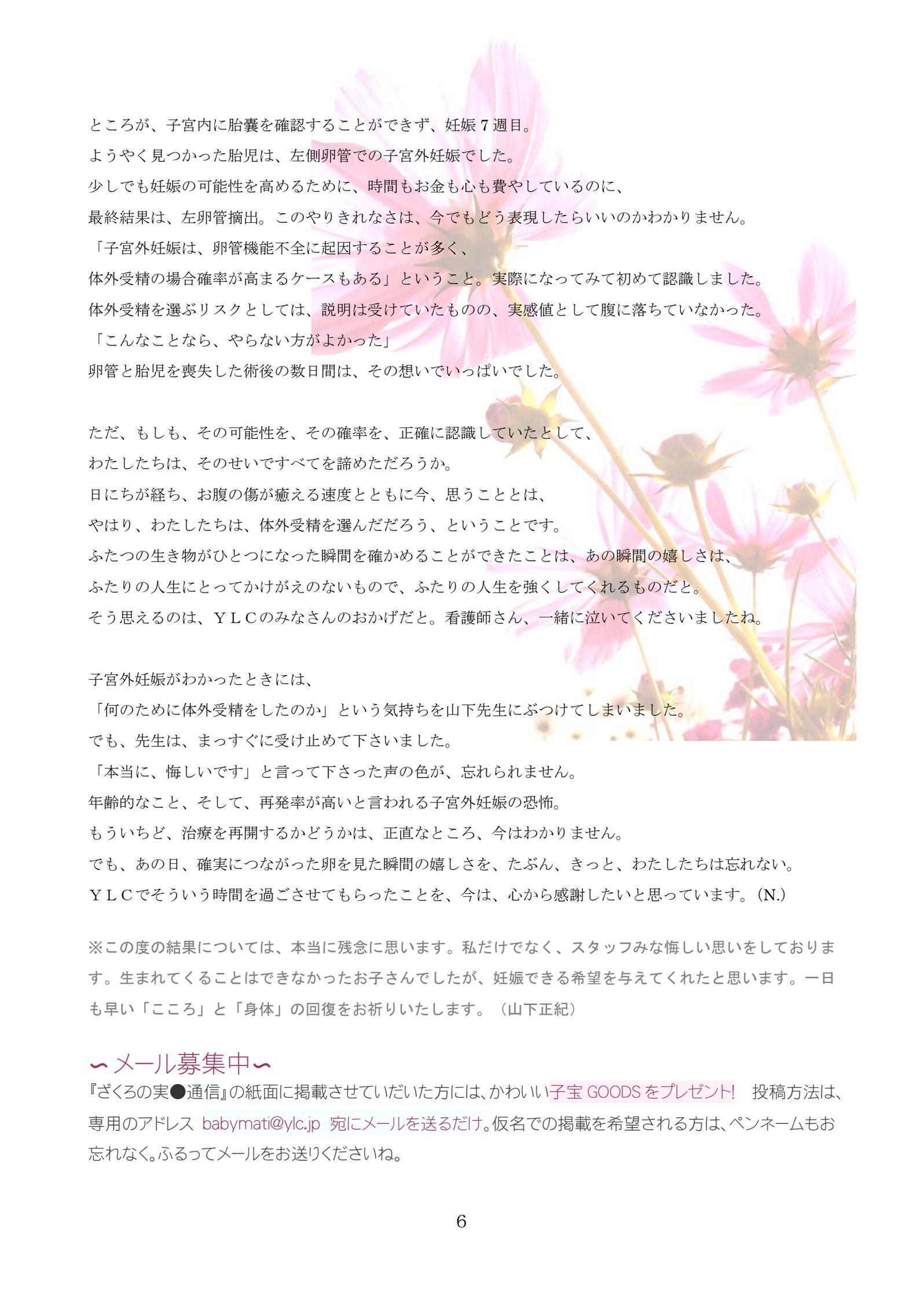


本日、13時にお電話にて、「5個採卵したうちの3個が受精」と教えていただきました。  
大切に見守ってくださって、ありがとうございます。「受精」と聴いただけで、涙が出ました。  
夫44歳、妻40歳と高齢ですので、受精しないことも覚悟していました。  
ふつうの妊娠なら、この段階での受精は目で確認することはできませんよね。  
「でも、確認することがなくても、精子と卵子はこうして交わったりしてるんだね」  
受精を伝えたときの夫のそんな言葉を聴いたら、体外受精を選んでよかったと思いました。  
そう思うと、逆に、これまでの言いようのない不安定感は、  
「生物として、つながりあえていない不安感」だったのかもしれない、と思ひ至りました。

正直、体外受精について、抵抗がなかったといえばウソになります。当初は夫もそうでした。  
けれど、最終的に背中を押してくれたのは、  
「体外受精は、死んだ人を生き返らせるようなアリエナイ行為ではないし、  
君の卵子と僕の精子から生まれるのであれば、何も問題はないでしょ」という、夫の意見でした。  
人と人とが結び合うのが夫婦であるとするのなら、  
子どものできない夫婦やセックスの少ない夫婦は、  
まるで結び合いが欠落しているデキソコナイ夫婦なんじゃないか。  
不妊治療をしていると、そんな泥沼にはまり込むことがあります。  
でも、不妊治療を、「ともに戦える」夫婦ほど、  
きちんと結びあえている夫婦はいないともいえるかもしれない。  
なぜなら、不妊治療は、その工程のひとつひとつにおいて、人として、男と女として、  
精神と機能と肉体のすべてを、あらいざらいひんめくられて他人の目に晒されるものですから。  
丸はだかになって、それでも、壊れない、より大切に思える夫婦は、  
子どもができなくても、夫婦でいる意義がものすごくあるはずで、  
こんなにシビアな夫婦試金石は他にはないかと。  
それを支えてくださる先生、医療スタッフのみなさまの存在は、ものすごいと思うのです。  
子どもがいる夫婦は、子どもを見て、そういうことを本能的に感じていたのですね。  
たとえば、わたしの両親も。

実は、2007年10月に、父が亡くなりました。67歳でした。  
8月にすい臓ガンが発覚し、2ヶ月でこの世を去りました。  
わたしに子どもができることを、言葉にはしないけれど、とても望んでいた父でした。

3回目の体外受精で陽性反応が出た日は、1年前、父のガンが疑われた日でした。  
父が授けてくれたんだ、と、涙が止まりませんでした。

A background image of several pink cosmos flowers with yellow centers, set against a soft, light-colored background. The flowers are in various stages of bloom, with some fully open and others as buds.

ところが、子宮内に胎嚢を確認することができず、妊娠7週目。  
ようやく見つかった胎児は、左側卵管での子宮外妊娠でした。  
少しでも妊娠の可能性を高めるために、時間もお金も心も費やしているのに、  
最終結果は、左卵管摘出。このやりきれなさは、今でもどう表現したらいいのかわかりません。

「子宮外妊娠は、卵管機能不全に起因することが多く、  
体外受精の場合確率が高まるケースもある」ということ。実際になってみて初めて認識しました。  
体外受精を選ぶリスクとしては、説明は受けていたものの、実感値として腹に落ちていなかった。  
「こんなことなら、やらない方がよかった」  
卵管と胎児を喪失した術後の数日間は、その想いでいっぱいでした。

ただ、もしも、その可能性を、その確率を、正確に認識していたとして、  
わたしたちは、そのせいですべてを諦めただろうか。

日にちが経ち、お腹の傷が癒える速度とともに今、思うこととは、  
やはり、わたしたちは、体外受精を選んだだろう、ということです。  
ふたつの生き物がひとつになった瞬間を確かめることができたことは、あの瞬間の嬉しさは、  
ふたりの人生にとってかけがえのないもので、ふたりの人生を強くしてくれるものだ。  
そう思えるのは、YLCのみなさんのおかげだと。看護師さん、一緒に泣いてくださいましたね。

子宮外妊娠がわかったときには、

「何のために体外受精をしたのか」という気持ちを山下先生にぶつけてしまいました。  
でも、先生は、まっすぐに受け止めて下さいました。

「本当に、悔しいです」と言って下さった声の色が、忘れられません。

年齢的なこと、そして、再発率が高いと言われる子宮外妊娠の恐怖。

もういちど、治療を再開するかどうかは、正直なところ、今はわかりません。

でも、あの日、確実につながった卵を見た瞬間の嬉しさを、たぶん、きっと、わたしたちは忘れない。  
YLCでそういう時間を過ごさせてもらったことを、今は、心から感謝したいと思っています。(N.)

※この度の結果については、本当に残念に思います。私だけでなく、スタッフみな悔しい思いをしております。  
生まれてくることはできなかったお子さんでしたが、妊娠できる希望を与えてくれたと思います。一日も早い「こころ」と「身体」の回復をお祈りいたします。(山下正紀)

## ～メール募集中～

『ざくろの実●通信』の紙面に掲載させていただいた方には、かわいい子宝GOODSをプレゼント! 投稿方法は、  
専用のアドレス [babymati@ylc.jp](mailto:babymati@ylc.jp)宛にメールを送るだけ。仮名での掲載を希望される方は、ペンネームもお忘れなく。ふるってメールをお送りくださいね。